

ことばの学び

a new way of learning Japanese

平成 23 年度版

『小学生の国語』『小学生の書写』

教科書特集号 別冊 Vol.1

特集 『小学生の国語 学びを広げる』 活用アイデア

平成二十年十二月二十五日に出された教科用図書検定調査審議会の報告「教科書の改善について」では、次のような提言があります。

「児童生徒は、教科書に記述されている内容をすべて学習しなければならない」とする、従来型の教科書観については、「個々の児童生徒の理解の程度に応じて指導を充実する」、「児童生徒が興味関心を持って読み進められる」、「児童生徒が家庭でも主体的に自学自習ができる」といった観点から、教科書に対する考え方を転換していくことも求められる。（「おわりに」）

わたしたちは、新しい発想の二分冊構成『小学生の国語』『小学生の国語 学びを広げる』により、新しい教科書観に立った教科書を実現しました。

本誌では、『小学生の国語 学びを広げる』を活用していただくため、具体的な活用アイデアを紹介いたします。



■目次■

- 『小学生の国語 学びを広げる』の機能……………2
はんたいことばであそぼう
↳ 「大きいかな、小さいかな」……………3
- 記号の意味と、色・形などの工夫をとらえ、
文章を書こう
↳ 「町で見かける記号」……………4
一つの言葉からイメージを広げよう
↳ 「どの『ばたばた』?」……………5
- 司会者の役割を学ぼう
↳ 「お札にしたいあの人物」・
「司会の役割・みんなの役割」……………6
- 表現することの楽しさを
↳ 「落語 じゅげむ」・
「落語を知ろう」……………8
- 『小学生の国語 学びを広げる』教材一覧……………10

●『小学生の国語 学びを広げる』の機能

新しい教科書観に立った二分冊構成

『小学生の国語』

すべての子どもが国語の授業の場に常に携行し、共通の学習、共同の学習を行うときに使用する「国語の教科書」です。

学習指導要領に示された指導事項・言語活動例をおさえ、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、習得した知識や技能を活用する力を身につけます。

『小学生の国語 学びを広げる』

個に応じた学習を前提とし、国語の授業に限らず、いつでもどこでも、必要に応じて参照できる「言葉の教科書」です。

国語科で学習した知識や技能を整理したり、学習意欲を喚起し、自学自習へと導き、学習習慣の確立を支えたりします。

新しい学びの創出を

新しい二分冊構成により、次のような学びの可能性が広がります。

◎『小学生の国語』と合わせた学習では
子どものニーズに沿った、多様で選択的なカリキュラムを生み出すことができます。

◎『学びを広げる』単独での学習では
子どもの自学のツールとして、より主体的で意欲的な学習が期待できます。

国語科の授業のみならず、他教科の学習や、総合的な学習の時間などにおいても、独立した教材として活用できます。

言葉の海へ

国語学習の基本となる語句・語彙の拡充と定着・活用を旨としました。言葉に関する興味・関心を引き出し、言語感覚を養います。

いつでもどこでも

言語生活のさまざまな場面で活用できる教材です。学習内容を整理したり、他の学習活動への活用をうながしたり、メタ認知により学習を定着させたりすることをねらいとしています。

言葉の図鑑

ビジュアルな紙面構成により、学習意欲を喚起し、言葉やその周辺から、自らの課題を発見できるような教材を設定しました。

漢字探検

「漢字活用辞典」は、漢字を音訓別に配列し、配当学年・用例を提示しました。すべての音訓から漢字を検索でき、主体的な漢字の活用を支えます。

読書の森で

個に応じて、本や文章に親む機会をいっそう充実させるとともに、一人一人が主体的に新しい発見をしていくことをねらいとして設定しました。



古典の世界

古典やその周辺の資料・情報から、自らの課題を発見することを目指しています。文章だけではなく、写真やイラスト等を通して古典の世界のさまざまな資料や情報にふれ、古典に親しめるように工夫しています。



はんだいことばであそぼう ～「大きいかな、小さいかな」

【活用教材】「大きいかな、小さいかな」

「学びを広げる」2年36ページ～37ページ



1 言葉探して遊び、語彙を豊かにする

○教材を参考に「大きいかな、小さいかな」のオリジナルを作ろう。

①「あり・ねずみ・赤ちゃん・小学生・ウマ・ゾウ・東京タワー・ふじ山・地球」の言葉並べのおもしろさを味わおう。

・だんだん大きく(小さく)なる順に並んでいることに気づかせる。
・単に大小の比較で言葉を並べるだけでなく、意外性やおもしろさを考えた言葉選びができるように、意欲を高める。

②個々に「大きいかな、小さいかな」の作品作りをする。
・大小の関係をとらえながら、具体的な物でイメージし、言葉を探せるようにする。
・書き表す形式は、教材を手本にしたり、カード形式にしたりして工夫する。
③友達と互いに交流し、作品を紹介し合いながら、言葉の選び方や言葉の並べ方を楽しむ。
・「いいな。」と思う作品を見つけて学ぶ。

2 言葉並べを交流し合って楽しむ

○お気に入りの「はんだいことば」を決めて、言葉並べをしよう。

①反対言葉を選び、「大きいかな、小さいかな」に習って作る。

例「明るいかな、暗いかな」(やみ夜↓月明かり
↓ほたるの光↓ローソク↓電灯↓シャンデリア↓野球場の照明↓太陽)

・言葉が思いつかない場合は、本や辞書を参考にしたり、友達と一緒に連想したりする。

②形式を、見開きページに絵と言葉で表し、じやばら式のカードに組んでいくと、前後両方向から、繰り返し楽しめる。

③友達と作品を紹介し合い、楽しむ。

例「遠い 近い」↓図書室・スパー・中国

例「強い 弱い」↓そよ風・春一番・たつまき

例「古い 新しい」↓貝合わせ・カルタ

○言葉遊びを通して、反対の意味をもつ言葉に関心をもったり、互いの関係付けを考えたりして、言葉の世界を豊かにする。

学びを広げる活用アイデア

②

記号の意味と、色・形などの工夫をとらえ、文章を書こう ～町で見かける記号～

1 記号の表す意味をとらえ、色や形などの工夫と結び付ける



○これはどんなことを伝えている記号だろう。
・つまずかないように。
・足元に気をつけて。

ア この記号は、「足元に気をつけてください」ということを表しています。
イ 黄色に黒の線で書いてあるので、とてもよく目立ちます。四角のはこのまわりには、「ぶつかるといいたいですよ」ということを表す線もついていて、きげんだというところがよく伝わります。

このような文例を示し、アでは記号の表す意味を、イではその意味をわかりやすく伝えるための工夫を、個々が選んで、記号について文章に書くようにさせる。

発展として、生活の中からさまざまな記号を見つけて「生活の記号事典」作りを行うのもよい。その際は、①その記号があった場所、②記号の意味、③伝えるための工夫、の三段落で構成して書くようにさせる。

【活用教材】「町で見かける記号」

「学びを広げる」3年12ページ～13ページ



学びを広げる活用アイデア

③

一つの言葉からイメージを広げよう ～『どの』ばたばた』?～

1 言葉の不思議を発見しよう

○『どの』ばたばた』?』を活用し、同じ言葉でもいくつかの意味をもち、異なる様子を表す「言葉の不思議」に気づかせたい。さらに、それぞれの意味の違いを考えさせることにより、言語感覚を豊かにほぐくみたい。

○教材の「ばたばた」を例にして、それぞれの意味を考える。

・鳥が羽ばたく音のバタバタ、急いでいる様子を表すばたばたなど、四枚の写真をもとに考える。同じ「ばたばた」でも、表している意味と書き表し方が違っていることを説明し合う。

・平仮名と片仮名の書き分け方も考える。

○「どのばたばた」という形で、説明し合った四つの写真の短い説明をノートに書く。

例「鳥が羽をバタバタと……」のばたばた。

例「自転車がばたばたと……」のばたばた。

○書いた説明を場面の様子が伝わるように、声に出して読む。声に出すことにより、「ばたばた」のイメージの違いを実感する。

○「ころころ」「かちかち」「こんこん」がらがら」「かんかん」についても同様に、写真を見てイメージを広げ、それぞれがどのような様子を表しているかを考えてノートに書く。

2 一つの言葉から広げよう

○「一つの言葉から、何がうかぶ?」というイメージゲームを友だちと楽しむ。

・『どの』ばたばた』?』で紹介されている言葉のほかにも、「ばらばら」や「ばらばら」「しんしん」など、生活経験のある身近な言葉のイメージを広げて楽しむ。

このように、一つの擬音語や擬態語が、いろいろな場面で全く違う意味で使われている事実に基づくことで、言葉のイメージをより豊かに広げることができると考える。さらに、学習した言葉を使った短文作りを楽しむと、自分の表現に生かす効果も期待できる。

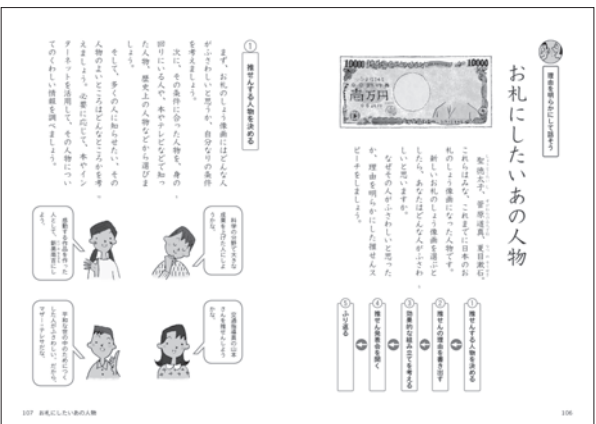
【活用教材】「どの』ばたばた』?」

「学びを広げる」3年10ページ～11ページ



司会者の役割を学ぼう
「お札にしたいあの人物」・「司会の役割・みんなの役割」

【活用教材】「お札にしたいあの人物」
「小学生の国語」6年106ページ～111ページ



1 司会者の役割とは？

司会者の役割とは一体何だろうか。発言者をリラックスさせること？ それとも、言いそびれたことや、実はまだ隠しているすごい情報を引き出すこと？ 話し合いの流れを方向づけること？ 司会者の役割を子どもたちに問いかけるながら話し合いをさせるとき、話し合いの内容やテンポは全く変わってくる。

2 「お札にしたいあの人物」の実践より

本実践で用いる教材は、「お札にしたいあの人物」である。推薦したい人物を決め、推薦の理由を効果的な組み立てて発表することをねらう。一方、聞き手は、この理由なら推薦できる、できないと聞き分けることが要求される。主は、スピーチ学習である。

しかし、推薦が認められたらこれで終わりとはならないし、もったいない。もし、推薦する人物を一人に絞るとしたら？ 順位づけを行うとしたら？ など、話し合う学習が必然となる。そこで、次のように学習を展開する。

(1) 司会者の役割を確認する。(「司会の役割・みんなの役割」の活用……司会者が気を付けることの特に①や③を意識させる。)

(2) 「お札会議」を開き、お札に載せる人物を決定する。

話し合いは、バーチャルの場だが、子どもたちの話し合いは白熱する。「この人物はこんなにすごい！こんなに素晴らしい！」の言い合いになる。しかし、このままでは、話し合いは平行線をたどり、一人に絞ることはできない。そうなったときこそ、司会の役割が重要になる。ここで、いったんストップをかけて、「あなたならどう司会をする？」と、全員に考えさせてみる。「司会の役割・みんなの役割」を参考にし、選択肢を示すのも手助けになるだろう。

① そのまま様子を見る。

② 多数決をする。

③ 話し合いの方向を示す。

ほうっておいたら話し合いはいつまで経っても終わらない。多数決ならすぐに決まるが、みんなの納得を得るのは難しい。

3 学びをつなぐ ～難しさの実感から～

授業を終えた子どもたちの感想は「一緒に」司会って難しい！」だった。しかし、一学期のはじめに、司会者の役割をみんなで学んでおけば、後の授業作り、学級作りにおいて、大きな効果を発揮する。教師が口を挟まなくても、司会の役割を考え、発言者も司会者に協力するようになる。

さらに、後に学習する「平和な世の中を築くためにーパネルディスカッションー」では、普段の話し合いと、何が同じで、何が独特なのかをイメージしやすくなるはずである。ここでの「司会の役割・みんなの役割」の活用もまた必然となり、学びはいつそのの広がりを見せる。



【活用教材】「司会の役割・みんなの役割」
「学びを広げる」6年24ページ～25ページ



- 一万円札(表面)……坂本龍馬
日本の歴史を大きく動かし、日本人に最も親しまれている人物である。
- 一万円札(裏面)……勝海舟
坂本龍馬の師匠で、勝海舟がいなかったら、坂本龍馬もなかっただろう。
- 五千円……西郷隆盛
坂本龍馬に次いで、親しまれている。西南戦争後、言論による運動が広がる。
- 千円札……伊藤博文
初代内閣総理大臣。大日本帝国憲法を作り、日本の近代化に大きく関わる。



6年生 2月教材
「平和な世の中を築くためにーパネルディスカッションー」

表現するじゆげむの楽しさを

「落語」じゆげむ・「落語を知ろう」

【活用教材】「落語 じゆげむ」

『小学生の国語』4年54ページ～57ページ



1 はじめに

落語は、一人で何人かを演じ分けるとともに、身振りや手振り、間の取り方など、聞き手を引きつける話し方が要求される。「じゆげむ」は、テンポがあり、児童にとって親しみやすく、声に出しながら演じることが出来る魅力ある教材である。

学習指導要領、中学年の「話すこと・聞くこと」の指導事項「ウ」に、「相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。」とある。この題材を通して、聞き手を引きつける話し方について考えさせ、進んで話したり、演じたりしながら、話す技能を習得させたい。また、古典落語のおもしろさも体感させていきたい。

2 学習指導計画(全四時間)

○学習目標

- ・落語に親しみ、進んで落語の本を読んだり、落語を演じたり聞いたりすることができる。
- ・言葉の抑揚や間の取り方、強弱、身振り手振りなどに気をつけて話すことができる。

○授業のポイント

- ・音読中心に進め、全員暗唱を目標にする。
- ・『学びを広げる』の資料を活用し、道具を使った、身振りや手振りや落語を演じたりすることの楽しさを体感させる。
- ・落語のVTRや絵本を紹介しながら、進んで落語の本を読む態度を育てる。

第一次(二時間)

- ・学習計画を立てる。
- ・「じゆげむ」をワークシートに視写し、何度も音読する。
- ・絵本『寿限無(ほるぶ出版・二〇〇四年)』を読んで、それぞれの言葉の意味を知る。
- ・グループで音読し合ったり、暗唱し合ったりする。

第二次(一時間)

- ・『学びを広げる』の「落語を知ろう」の資料や古典落語のVTRをもとに演じ方を知り、「じゆげむ」の練習に活かす。

第三次(一時間)

- ・グループで「じゆげむ」の落語を演じ合う。

【活用教材】「落語を知ろう」

『学びを広げる』4年107ページ～108ページ

3 授業の実際

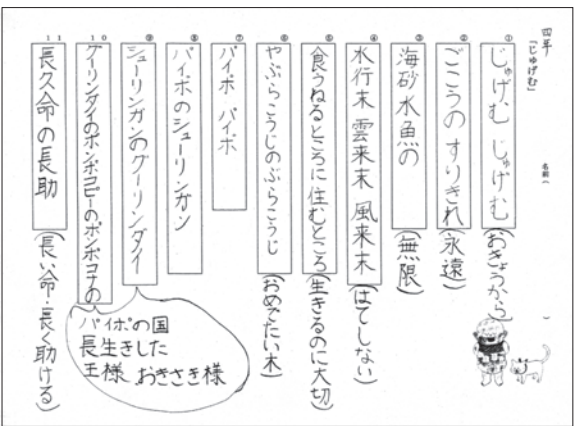
第一次、二時間目

(視写して意味を考える。)

- ・ワークシートを用意し、教師とともに「じゆげむ」の名前の部分を丁寧に視写する。

・絵本『寿限無』をOHCに映し出し、それぞれの名前の意味について解説しながらワークシートに書き込ませる。

【児童のワークシートより】



第二次

(『学びを広げる』の資料をもとに話し合う。)

【教師の発問と児童の反応】

- T** 落語には、どんな工夫があるかな。資料からわかることはありますか。
- C** 扇子と手ぬぐいでいろいろな動作をしています。
- C** 身振り手振りで、泣いている様子などを、うまく表しています。
- T** 扇子や手ぬぐいは何の代わりをしているかな。
- C** お箸の代わり
- C** 筆の代わり
- C** 三味線のばち
- C** 焼き芋……
- T** ここに扇子と手ぬぐいがあります。みなさんも、この落語家のように、動作をまねてやってみましょう。(扇子と手ぬぐいを数セット用意する。)(児童は、そばや焼き芋を食べる様子、三味線を弾く動作を、グループみんなの前で喜んで行った。)
- T** では、最後の写真は、何をしている場面かな。(教師が動作化をする。)
- C** どじょうすくいですか(笑)。
- C** 船をこいでいるところですか。
- T** このほかにも工夫した話し方はないか、VTRを見て、探しましょう。

【学習を終えた後の児童の感想】



4 おわりに

本実践を通して、児童は落語のおもしろさを実感することができた。特に、資料の写真を見ながら、扇子や手ぬぐいでいろいろな動作を演じる活動では、どの児童も笑顔で生き生きと取り組むことができた。

また、話すときには、身振りや間、強弱、抑揚などが大切な要素であるということが、児童によく浸透したように思う。

何より、落語を題材にすることで、表現することの楽しさを児童に実感させることができたのは、大きな成果である。教室のあちこちで「じゆげむ」を唱えながら身振り手振りで演じる児童が増え、子どもの心が温かくなっていくことを願って本実践を継続していきたい。

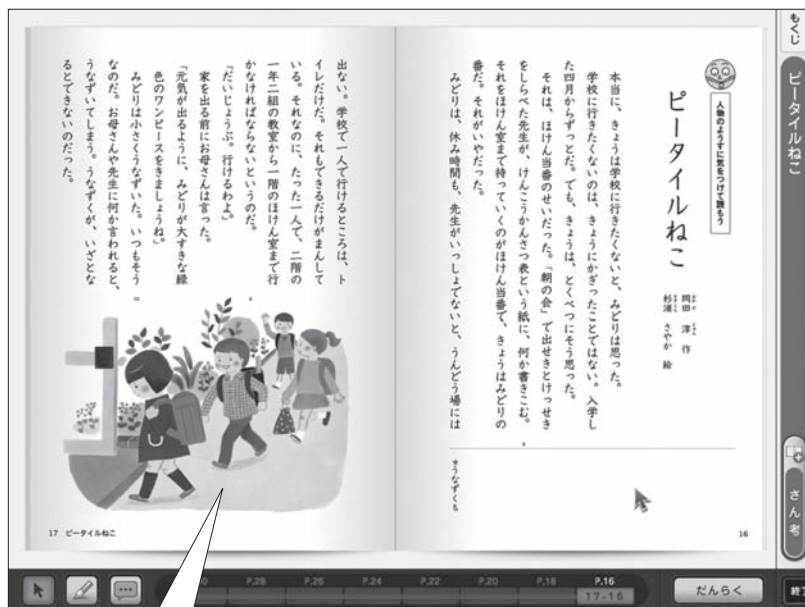
●『小学生の国語 学びを広げる』教材一覧●

2年	3年	4年	5年	6年
言葉のぼうけん地図 ぼうけん手帳	言葉のぼう険地図 ぼう険手帳	言葉のぼう険地図 ぼう険手帳	言葉の冒険地図 冒険手帳	言葉の冒険地図 冒険手帳
言葉の図かん 覚えたかな？ 百年たっても あ、知ってる！	言葉の図かん どの「ばたばた」？ 町で見かける記号 言葉と数がいっぱい	言葉の図かん 色、いろいろ ユニバーサルデザインって なに？ 字のない絵本	言葉の図鑑 写真歳時記 新聞ができるまで 表情・しぐさ・気持ち 世界じゅうのこんにはち 不思議な絵本 知る絵本	言葉の図鑑 こよみってなに？ 見て、聞いて、感じて 見る文字、見せる文字 見てもらおう、読んでもらおう 大人になっても 古典を絵本で
言葉の海へ 原こう用紙に書いてみよう 言葉を感じよう 記録に残そう 国語学習のための用語集	言葉の海へ 一対一で話すときには わかりやすい文を書くには さいころでスピーチをし よう 言葉で遊ぼう あなたならどう言う アンケートを活用しよう 国語学習のための用語集	言葉の海へ グループで話すときには お願いの手紙を書くときには カードでスピーチをしよう 言葉を広げよう 点字にふれてみよう インタビュースをするときは 国語学習のための用語集	言葉の海へ 司会をするときには お礼の手紙を書くときには お題をもらってスピーチ をしよう 言葉を深めよう ものの数え方 数字の書き表し方 国語学習のための用語集	言葉の海へ 司会の役割・みんなの役割 説得力のある文章を書くには 話すことや書くことに迷ったら 表現を広げよう 言葉の輸出入 区切り符号の使い方 国語学習のための用語集
言葉の海へ わたしたちの一日／わた したちの道／わたしたち の体 ちがう字で同じ読み 大きいかな、小さいかな	言葉の海へ 動きを表す言葉 暮らしにかかわる言葉 ちがう字で同じ読み どこで区切ればいいのかな	言葉の海へ 感覚を表す言葉 結びつく言葉 ちがう字で同じ読み 方向と方角わかるかな	言葉の海へ つながる言葉 関係を表す言葉 空の言葉 違う字で同じ読み 不思議な言葉	言葉の海へ 間違えやすい言葉 体を使った言葉 四季の言葉 違う字で同じ読み これはなんですか
漢字たんけん 漢字活用辞典★	漢字探検 漢字活用辞典★ ローマ字で遊ぼう	漢字探検 漢字活用辞典★ ローマ字で遊ぼう	漢字探検 漢字活用辞典★ 中学校で学ぶ読み方★ 常用漢字一覧★	漢字探検 漢字活用辞典 中学校で学ぶ読み方★ 常用漢字一覧★
読書の森で 小さな図書館 読書の時間 スーフと馬頭琴 モンゴル民話 藤公之介再話 古屋のもり 坪田譲治 きゆうきゆうばこ 山田真	読書の森で 小さな図書館 好きな作家を見つけよう 読書の時間 えんぴつびな 長崎源之助 手ぶくろを買いに 新美南吉 いのちのおはなし 日野原重明 星取り★ いろは歌★ 竹取物語★	読書の森で 小さな図書館 あの作家はこんな字を 読書の時間 一つの花 今西祐行 皇帝の新しい着物 アンデルセン、大畑末吉訳 より確かに、より豊かに 読む 「ちよつと自まんしたく て」理科好きに 小倉百人一首 浦島太郎★	読書の森で 小さな図書館 名作のふるさと「日本編」 読書の時間 あいつの年賀状 重松清 ブレイメンの町の楽隊 グリム兄弟、高橋健二訳 メディアとのつき合い方 堀田龍也 一枚の絵を言葉で書い てみる 金田一秀穂 もったいない 吉野信吾、小野寺慎一郎 まんじゅうこわい 石崎洋司 漢詩 平家物語	読書の森で 小さな図書館 名作のふるさと「外国編」 読書の時間 仙人 芥川龍之介 アデイ・ニハアスの英雄／ 黄金の土 クーランダー、レスロー 字のないはがき 向田邦子 「計算視力」を鍛えよう 鍵本聡 少数意見 湯川秀樹 枕草子 清少納言 徒然草 兼好法師 おくのほそ道 松尾芭蕉
古典の世界 これからのわたし 昔話を知ろう 「遊び」の昔	古典の世界 これからのわたし 絵巻物を知ろう 「食事」の昔	古典の世界 これからのわたし 落語を知ろう 「着物」の昔	古典の世界 これからのわたし 能・狂言を知ろう 「住まい」の昔	古典の世界 これからのわたし 歌舞伎・文楽を知ろう 「学校」の昔

★の教材には、発展的な学習内容が含まれています。

三省堂『小学生のデジタル国語』

1冊の「大きな教科書」が、授業を変える！



- ◎教科書と同じように紙面をめくることができ、ワンクリックで本文や挿絵が拡大します。
- ◎書き込み機能や資料映像など、便利な機能や豊富な資料で、子どもたちの理解をサポートします。
- ◎『学びを広げる』とのより密接なリンクで、授業の可能性が広がります。

三省堂 国語教育

ことばの学び

a new way of learning Japanese

平成 23 年度版『小学生の国語』『小学生の書写』
教科書特集号 別冊 vol.1

2010 年 4 月 10 日発行

●編集・発行人 八幡 統厚

●発行所 株式会社 三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14

TEL 03 (3230) 9427 [編集] 9551 [営業]

URL <http://小学生の国語.jp/>